

コリント

第二

11

「信仰者として 誇るべき弱さ」

コリント人への手紙Ⅱ 11章 自らの弱さを誇るパウロ

アウトライン

- 0. イントロダクション
- I. パウロの誇り 1~15節
- II. 弱さを誇るパウロ 16~33節
- III. まとめと適用

弱さを自覚し、
指摘し合える関係を!!



コリントの遺跡

コリントの手紙第二とは？

- **著者** …使徒パウロ。
- **年代** …第一(55年)の2年後、57年頃。
- **執筆場所** …コリントへの途上、ピリピ。
- **対象** …コリントのキリスト者たち
(離散のユダヤ人と異邦人)
- **目的** …アフターケア。献金の促し。
非難への弁明。再訪問の備え。



パウロのコリント訪問

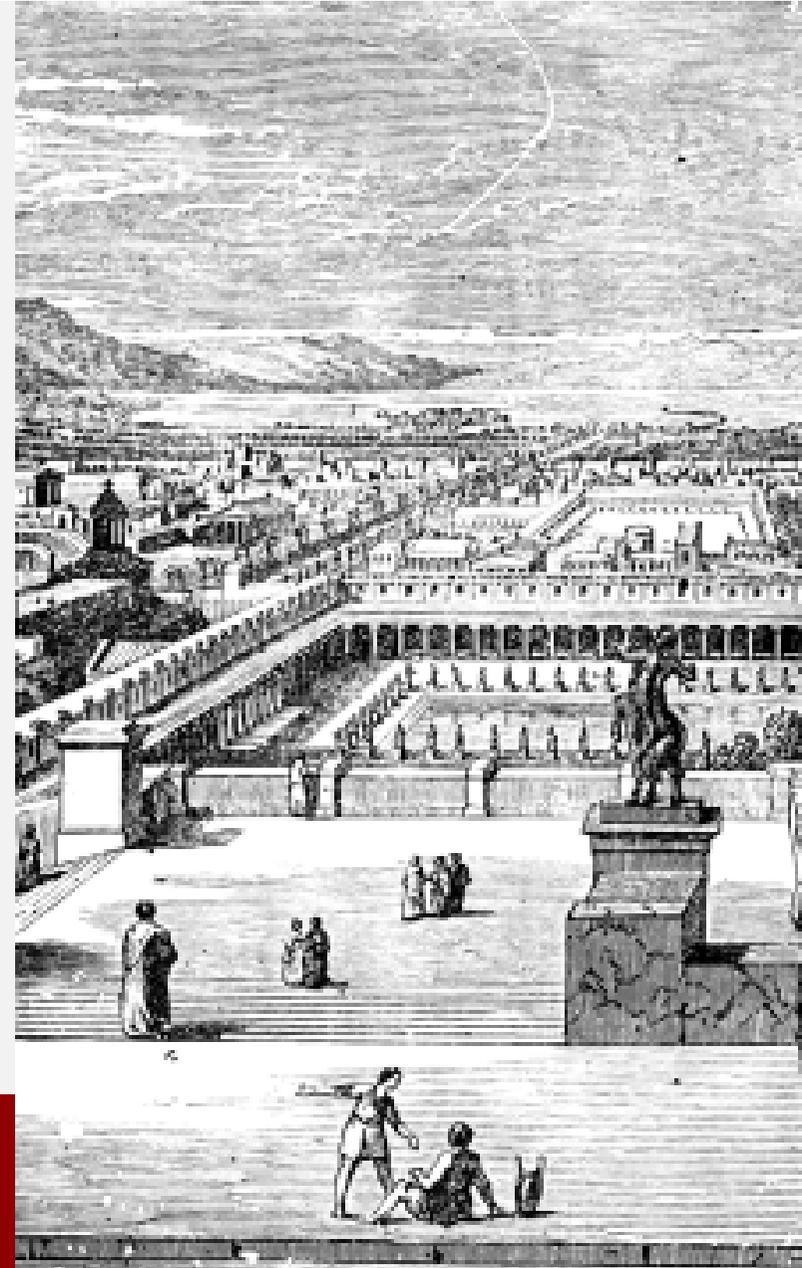
- ① 最初の訪問 (第二次旅行) ・ 1年半滞在 50年
- ② エペソ滞在中 (第三次旅行) 手紙 A を送付
第一の手紙を送付 54～55年
- ③ 二度目の訪問 (Ⅱ コリ 13:2) 55年
手紙 B (悲しみの手紙) を送付
- ④ コリントへの途上で (ピリピ?)
テトスと合い、現状を聞く
第二の手紙を送付 55～56年
- ⑤ 三度目の訪問 55～56年



【コリントとコリント教会】

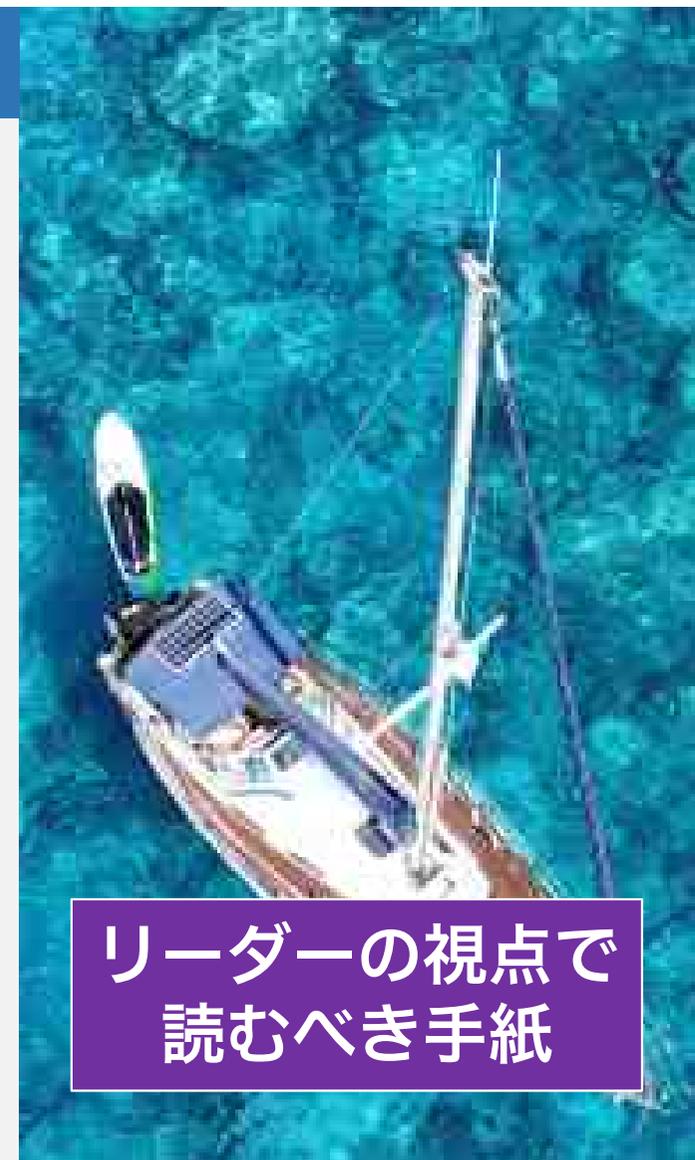
- アカヤ州(ギリシャ南部)の州都
国際都市。ローマ人、ギリシャ人…etc。
かなりの規模のユダヤ人共同体も存在。
- 不道德の町。少年への性愛、複数の愛人。
神殿娼婦の存在。偶像崇拜が蔓延。
- 異邦人信者が主流。偶像への警戒の薄さ。
基本的教理からの逸脱。自由のはき違え。

第一の手紙の後に変化はあったのか？



第二の手紙の特徴・テーマ

- 第一の手紙は、コリントの信徒もよく知っているはずの**信仰のイロハのイ**を確認するもの。
- 変化もあった一方で、パウロに強まる反感も。
 - ① グッドニュース…罪を犯した人の悔い改め
 - ② 残念なニュース…献金が集まっていない
 - ③ バッドニュース…パウロの使徒性への疑い
- **伝えるべきこと**は、第一の手紙に執筆済み。さらに加えるとすれば、**パウロ自身の思い**。
→ **感情**が強く表れた手紙になっている。



リーダーの視点で
読むべき手紙

パウロの思いをくみ取り、リーダーとして私の信仰を成長させよう



I. パウロの誇り IIコリント11章1～15節

【キリストの花嫁】 Ⅱ コリ11:1~2

私の少しばかりの愚かさを我慢してほしいと思います。いや、あなたがたは我慢しています。

私は神の熱心をもって、あなたがたのことを熱心に思っています。私はあなたがたを清純な処女として、一人の夫キリストに献げるために婚約させた*のですから。

*福音を信じた者は、キリストの花嫁。



【偽教師たちの罠】 II コリ11:3～4

蛇が悪巧みによってエバを欺いたように*、あなたがたの思いが汚されて、キリストに対する真心と純潔から離れてしまうのではないかと、私は心配しています。

*「善悪の知識の実を食べても死なない。神のようになれる」と神の約束を破らせ、断絶させた。

■ キリストから離れさせる

➔ キリストの律法を破らせる。

➔ 使徒の教えを軽んじ、ないがしろにする。



【偽教師たちの罠】 II コリ11:4

実際、だれかが来て、私たちが宣べ伝えなかった別のイエスを宣べ伝えたり、あるいは、あなたがたが受けたことのない異なる霊や、受け入れたことのない異なる福音を受けたりしても、あなたがたはよく**我慢***しています。

*アネクソー …ネガティブな意味での我慢。

「II テモ 4:3 というのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがつて自分たちのために教師を寄せ集め、」



偽の教えは断固
拒否すべきもの

【パウロの自負】 II コリ11:5~6

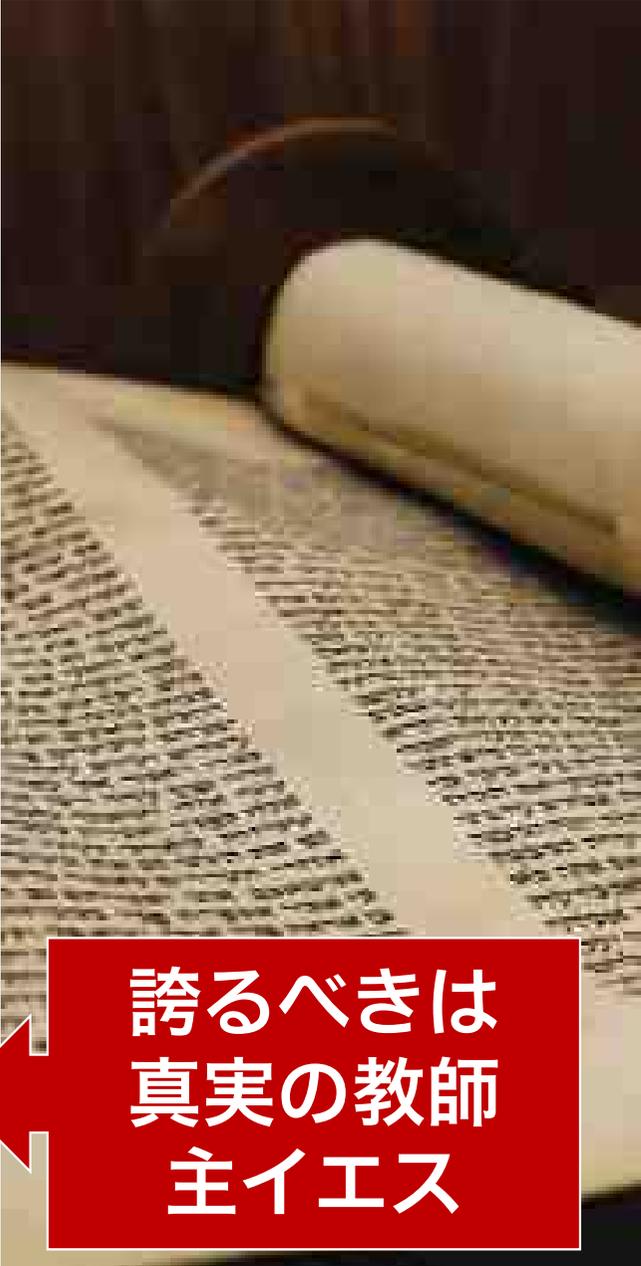
私は、自分があの大使徒たちに少しも劣っていないと思います。

話し方は素人でも*、知識においてはそうではありません*。私たちはすべての点で、あらゆる場合に、そのことをあなたがたに示してきました。

* 弁論術に長けた使徒との比較で言われたこと。

* 稀代の律法学者ガマリエルの弟子。

豊富な聖書知識に、復活の主イエスの導きと、聖霊の助けを受けている。



誇るべきは
真実の教師
主イエス

【他の諸教会から奪い取って】 II コリ11:7~8

それとも、あなたがたを高めるために自分を低くして、報酬を受けずに神の福音をあなたがたに宣べ伝えたことで、私は罪を犯したのでしょうか*。

私は他の諸教会から奪い取って*、あなたがたに仕えるための給料を得たのです。

* 「…まさかそんなことはありませんよね」

* コリントでの無償の宣教の背後には、他地域のクリスチャンたちからの献身と献金があった。

→ いまだ無理解なコリントの信者の幼さ



多くの献身と
犠牲の上に
今の学びはある

【それでいいのか？】 Ⅱコリ11:9

あなたがたのところにおいて困窮していたときも、私はだれにも負担をかけませんでした。マケドニアから来た兄弟たちが、私の欠乏を十分に補ってくれた*からです。私は、何であれ、あなたがたの重荷にならないようにしましたし、今後もそうするつもりです*。

*宣教を支えたのは、貧しいマケドニアの教会

*信仰の成熟したクリスチャンには負担をかけても、未熟な信仰者の重荷にはならないと!!

→「あなたがたには期待しないよ」



この不名誉を
甘受するのか？
それでいいのか？

【封じられない誇り】 Ⅱ コリ11:10~11

私のうちにある、キリストの真実にかけて言います。アカイア地方で私のこの誇り*が封じられることはありません。

なぜでしょう。私があなたがたを愛していないからでしょうか*。神はご存じです。

*コリントの信徒には経済的負担をかけないこと

*相応の負担を求めるのが、本来の姿。

→愛し合う者は、互いに支え合う。



【パウロの決意の理由】 II コリ11:12~13

私は、今していること*を今後も続けるつもりです。それは、ある人たちが自分たちで誇りとして
いることについて、私たちと同じだと認められる
機会を求めている*のを断ち切るためです。

こういう者たちは偽使徒、人を欺く働き人であり、
キリストの使徒に変装しているのです。

*コリント教会に対する無償の奉仕

*正統性を主張する偽教師、偽使徒たちが、
無償の奉仕を誇っている現実に対抗するため。



そもそもの問題は
コリントの信者の
信仰の幼さ

【パウロの警告】 II コリ11:14~15

しかし、驚くには及びません。サタンでさえ光の御使いに変装します*。ですから、サタンのしもべどもが義のしもべに変装したとしても、大したことはありません。彼らの最後は、その行いにふさわしいものとなるでしょう。

*サタンは元大天使。天使への偽装など簡単。

■ 無償の奉仕を強調する偽使徒・偽教師がおり、人々の心を捕らえ、偽りの教えで支配していた。

➡ だまされるのは、信仰が未熟で幼いから。

➡ 本質を見極める成熟した信仰が求められる





Ⅱ. 弱さを誇るパウロ

Ⅱコリント11章16～33節

コリントの海

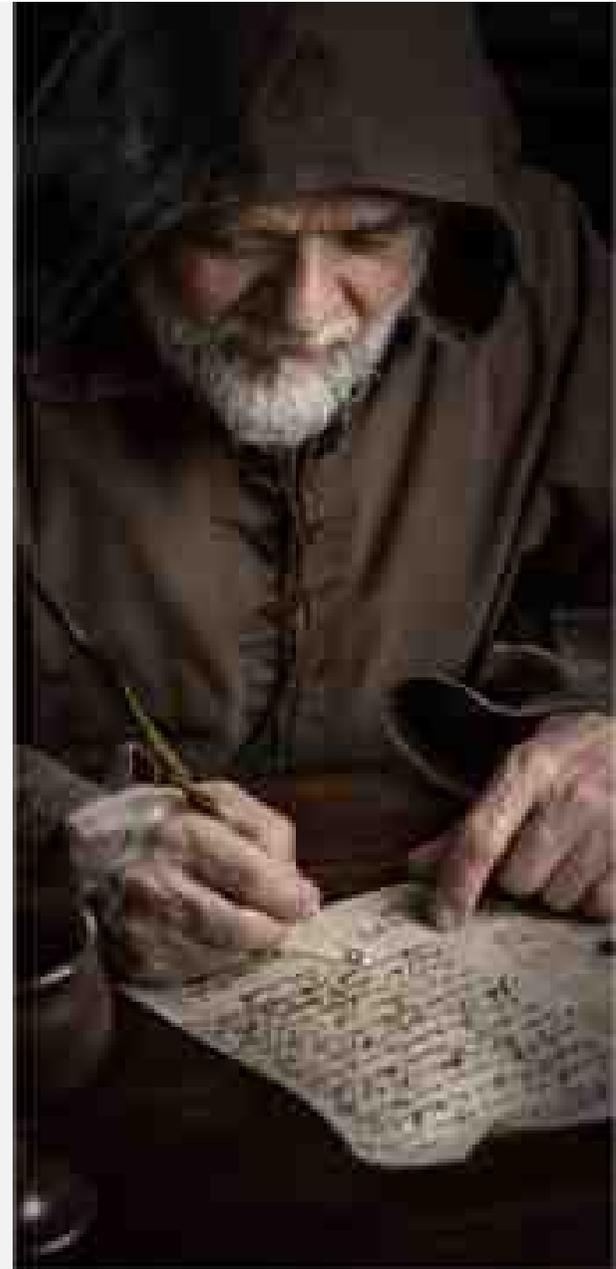
【愚か者として誇る】 Ⅱ コリ11:16~17

もう一度言いますが、だれも私を愚かだと思わないでください。もし愚かだと思うなら、愚か者として受け入れてください。そうすれば、私も少しばかり誇ることができます。

これから話すことは、主によって話すのではなく、愚か者として、自慢できると確信して話します。

■パウロが対抗しているのは、謙遜で正統だと言いながら、自らを誇る偽使徒・偽教師たち。

➡真実に誇るべきものは何か？パウロは問う。



【コリント人の偽りの誇り】 Ⅱ コリ11:18~20

多くの人が肉によって誇っているので、私も誇ることにします。あなたがたは賢いので、喜んで愚か者たちを我慢してくれるからです。

実際あなたがたは、だれかに奴隷にされても、食い尽くされても、強奪されても、いばられても、顔をたたかれても、我慢しています*。

*実際には、偽の教えを喜んで誇っている!!

■ 偽使徒・偽教師をのさばらせている、愚かなコリントの信者たちへの強烈な皮肉!!



【私たちは弱かった】 Ⅱ コリ11:21～22

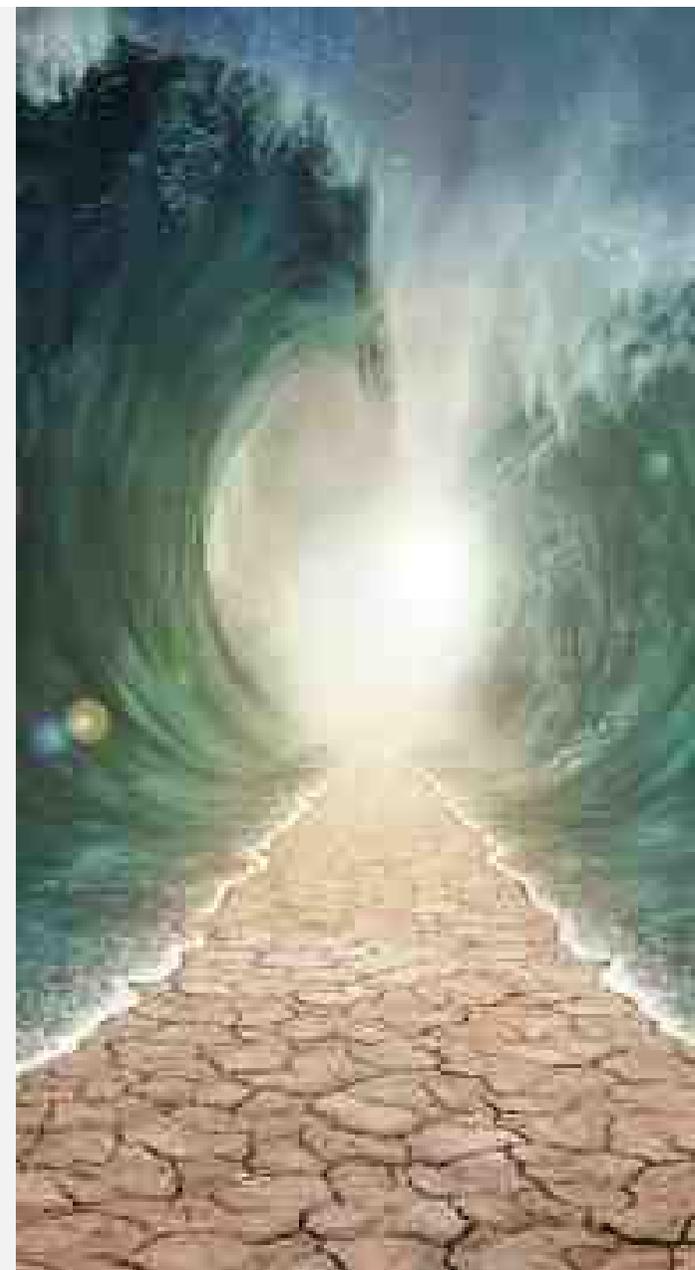
言うのも恥ずかしいことですが、**私たちは弱かったのです***。何であれ、だれかがあえて誇るのなら、私は愚かになって言いますが、私もあえて誇りましょう。

彼らはヘブル人*ですか。私もそうです。彼らはイスラエル人*ですか。私もそうです。彼らはアブラハムの子孫*ですか。私もそうです。

*自らを誇る人が忘れている救いの原点。

➡主は、最も小さな民を一方的に選ばれた。

*偽使徒たちが誇っていた、神の民のルーツ





【キリストのしもべ】 Ⅱコリ11:23

彼らはキリストのしもべですか。私は狂気したように言いますが、私は彼ら以上にそうです。労苦したことはずっと多く、牢に入れられたこともずっと多く、むち打たれたことははるかに多く、死に直面したこともたびたびありました。

【鞭打ち、石打ち、難船、漂流】Ⅱ コリ11:24~25

ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったこともあります。

【難】 II コリ11:26~27

何度も旅をし、川の難、
盗賊の難、同胞から受ける
難、異邦人から受ける難、
町での難、荒野での難、
海上の難、偽兄弟による難
にあい、労し苦しみ、
たびたび眠らずに過ごし、
飢え渴き、
しばしば食べ物もなく、
寒さの中に裸でいたことも
ありました。



【さらなる重荷】 II コリ11:28

ほかにもいろいろなことがあります。さらに、日々私に重荷*となっている、すべての教会への心づかいがあります。

*エピスタシス …扇動(使徒24:12)、妨害、殺到、監督、心遣い…。

*“教会の心配事(口語訳、新共同訳)”

- ➔この手紙の執筆の動機ともなったこと。
- ➔地域教会のリーダーの悩みの最大のもの。



【パウロの弱さ】 II コリ11:29~30

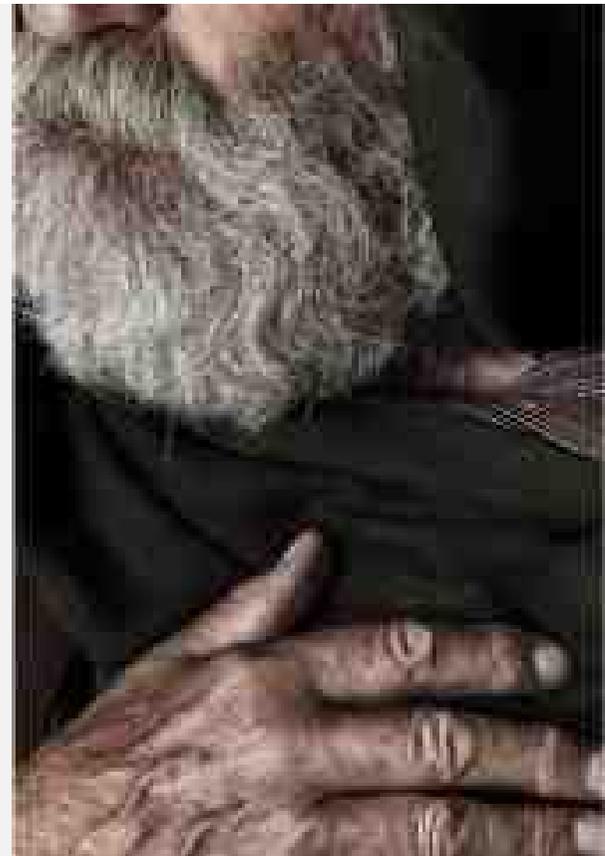
だれかが弱くなっている*ときに、私は弱くならないでしょうか。だれかがつまずいていて、私は心が激しく痛まないでしょうか。

もし誇る必要があるなら、私は自分の弱さのことを誇ります。

*アステネオー …本来の意味は、「病む」

■パウロが意識するのは、一つの体としての教会。体の一部が病めば、全体が病んでいる。

➔パウロの病みは、救われたからこそのもので、すべての病みを担われたのが、主イエス



兄弟姉妹の
病みを負うのが
キリスト者

【パウロの宣教の原点】 II コリ11:31～33

主イエスの父である神、とこしえにほめたたえられる方は、私が偽りを言っていないことをご存じです。

ダマスコでアレタ王の代官が、私を捕らえようとしてダマスコの人たちの町を見張りましたが、私は窓からかごで城壁伝いにつり降ろされ、彼の手を逃れたのでした。

■ 回心後、即、福音を述べ伝え始めたパウロ。

始まりの町ダマスコから、迫害は始まっていた。

➔ 回心以後、主の道を歩み通してきたパウロ。

偽りなく、真実に、真理のみを告げてきた。





Ⅲ. まとめと適用 弱さを自覚し、指摘し合える関係を!!

マケドニアの山々

コリントのクリスチャンの陥っていた過ち

①寛容のはき違え

→偽りの教えに対する寛容さ。

②真実の教師パウロへの疑念、反抗。

→自分の罪を制御できない。

③偽教師たちの表面的な態度にだまされていた

“無報酬で身を献げ、犠牲を払って真理を伝えている…云々”

→背後には、献げ物を惜しむ利己心。信仰の未熟さ。

あえて誇ったパウロが何より伝えたかったこと

- コリントの人々は、未熟で、偽教師に騙されているのにも気づかず、傲慢に自分を誇っている。地域教会自体が危機に陥っている。
- 教会は一つのキリストの体。一部が病めば、全体が病んでいる。コリント教会が病めば、パウロも他の信者も病む。放置できない。
- **真実に誇るべきは、自分の弱さ**であって、力ではない。
 - ➔ どうしようもなく病んだ私を、主イエスが病まれ、救われた。
 - 福音**とは、“主の前においての自分自身の弱さの表明”でもある。
 - キリストの**福音**のゆえに、病んだ弱い自分を誇ることができる。

パウロが伝える「弱さ」の本質

- 弱さ(アステネオー)は、元来、病むこと。病気。
人の病の起源も、神との約束を破った罪にある。
- 病んだ罪人の私たちのため、主イエスが弱くなられ、病まれた。
福音を信じて新生した者は、主イエスの弱さを誇りとする。
- 自らの十字架を負って歩む者は、自らの弱さ(病み)を負う。
この世界の病み、人々の病みを身をもって味わい知らされる。
弱さ(病み)を負えるのは、成熟し自分の罪をよく知る信仰者。

「弱さ」と、救い・聖化の原則

自分の弱さを受け入れなければ、福音を信じて告白することはできない。

気づかされた弱さを拒んでいる人は、福音によって成長することはできない。

キリスト者が負いあうべき弱さ(痛み)

- すべての信仰者は、**一つのキリストの体**の小さな部分。
小さな一部が病めば、その痛みは、全身に伝わる。全身が病む。
- **地域教会**も同様。一人が病めば、そこに集う全員が病む。
パウロが、罪を指摘し、悔い改めを促し続けたように、
一人が道を外れるとき、放置しておいてよいわけがない。
- 伝えるべきことを伝える責任が、**共に集う一人一人**にある。
応答は個々の責任。同時に結果としての**喜びも痛みも共に負う**。

避けがたい苦難の中に身を置こう

- パウロが列挙した数々の苦難。最後に加えたのは「**教会の心配事**」
例) 社会経験豊富なリーダーたちの別次元の苦戦と苦悩。
- “**避けられない苦難が地域教会には必ずある”**、と心しよう。
どこに行っても逃れられない。なら、腹を据えて関わろう。
- 顔と顔を合わせた、逃げられない兄弟姉妹の関係性を、
意識して、どこでどうやって築き保っていくか。問われている。
→**信仰共同体との関わりなしに、信仰が育まれることはない。**

★ 私の弱さを誇り、主を証ししていこう ★

「もし誇る必要があるなら、私は自分の弱さのことを誇ります。」

- なぜなら、その「弱さ」は、キリストの体の一部である証しだから。
- キリストが、私の弱さ(痛み)を十字架で担ってくださった。だから私も自分の弱さを負い、兄弟姉妹の弱さを共に負って歩むよう求められている。
- 相手の弱さを指摘し、自分の弱さを自覚する。パウロの率直さに学ぼう。弱さに向き合えることこそ、信仰の確かな証しと知ろう。

コリント人への手紙第一 12章26～27節

一つの部分が苦しめば、すべての部分がともに苦しみ、
一つの部分が尊ばれれば、
すべての部分がともに喜ぶのです。

あなたがたはキリストのからだであって、
一人ひとりはその部分です。

次回、12章で、さらに学びを深めます!!

「天のお父さま。わたしは、み子イエス・キリストが、

①わたしの罪を贖うために十字架で死に、

②墓に葬られ、

③三日目に復活したこと、を信じます。

主の約束により、私は、キリストの花嫁とされました。

ふさわしく備え、自らを育てていくことができますように。

主イエスが担ってくださった、私の弱さを自覚させてください。

兄弟姉妹と弱さを共に分かちつつ、歩む者としてください。

キリストの体に連なる、さらなる恵みを味わわせてください。

主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」